

告188-3
(告1882の反訳)

今野：だから、3回目の開示請求を出すということで、話し聞いているんで、出して
ください。それだけで。

野村：嫌です。改ざんされてね。こんな言い方されてね。

今野：改ざん、改ざんって、言うけど、それ、後になって、気付いた話でしょ。

野村：えっ？

今野：それ、今週になって、気付いた話しじゃないですか？

野村：文書を見なかったら、改ざんなんて気付きませんよ。あんなところ、変えら
れるなんてね、僕は思いもしませんでした。

今野：でも、それ、後出しジャンケンじゃないですか？

野村：えっ？

今野：いやいや、後出しジャンケンじゃないですか？そこをネチネチネチネチと、
じゃ、あの場で言えばよかったんじゃないか？

野村：あんなところが改ざんされるとは思いもしませんよ。

今野：じゃ、見ればいいっしょが、そこで。

野村：そういう言い方ってあります？

今野：いやいや、そんなこと言うんだったら、そんなの後出しジャンケンで卑怯だ、
とかって言うんだったら、そんな、そこで、3回目の開示請求がって、言わ
なきゃよかったんじゃないですか？

野村：何でも言ってるね、あそこはね、決して・・・

今野：いやいや、それとこれと今、話し違うじゃないですか。

野村：請求を受けてね、何について受けたかということをおね、変えちゃいけない所
だし、だから、僕も変えられたことも一度もないしね、だからね、文書のね、
開示請求を受けてね、そこに変えられてるとは、思いもしなかったからね。

野村：これを確認する必要があるとはね、頭の端をよぎりもしませんでした。とうぜん、僕が請求した内容が書いてあると思ってましたよ。あなたが言ってるのは、「見ない方が悪い」。

今野：いやいやいやいや、いや。だってその場でさ、見ないから、そういう話になってるんでしょ？

野村：あなたが言ってるのは、「自分は悪くない」とね。「そのときにね、見ない方が悪い」。よく分かりました。

今野：悪くないとは言っていないですよ、って。

野村：じゃ何ですか？

今野：いや、そ、だから、見ない、だから、その後、3回目の請求出すのと、それとは違うでしょって。

野村：そんなところにね、そんなところを改ざんしてまでね、ITネットだけを出そうとしてるからね。僕もね、白黒はっきりさせよう、って気になったんです。出しませんよ。これ、このままね、このまま、僕は、あの審査請求だしますよ、あなたがね、あなたが改ざんした状態で。後で訂正されたのはね、ちゃん付けるけどね、あなたがね、ここまでね、頑張ってるね・・・

野村：改ざんでも何でもいいです。じゃ。

今野：こっちも、決裁とって、やってるんで。

野村：えっ？誰に決済？

今野：決済とってやってるんで。

野村：いや、今日ね、話してる内容を、誰かの決裁もらってます？　ここまで（不明）話ね。

今野：だから、その、決定通知書を送っているの、決裁もらってますんで。改ざんでも、何でもいいですけど・・・

告188-3
(告1882の反訳)

野村：聞いているのはね。あなたはね、この電話の話しの中でね。出さないと、出さないと、もう1回ね、（3回目の請求書を）出してくれという話をね、文書確認してもらってね。僕に伝えようとしてますよね。あなたはね、逐一、副町長にね、報告して、判断を仰いでいるみたいだけどね。今回の話もね、副町長に確認しました？ 「こういう回答しようと思ってますけど」。

今野：いいえ

野村：してないんですか？

今野：してないですよ。

野村：はい、わかりました。じゃあ、あなたの判断ということで理解しました。結構です。ありがとうございます。

今野：はい。